

健康通信

全身麻酔に伴う稀な合併症〜術中覚醒〜



麻酔科 医長

須賀 鮎子

全身麻酔を受ける

患者さんが手術を受ける場合、痛みをとるために必ず麻酔を受ける必要があります。局所麻酔による皮膚表面の麻酔だけで手術が行えるような場合は外科医が麻酔を行います。全身麻酔が必要な場合、麻酔科医が全身管理(意識が消失し(鎮静)、痛みがない(鎮痛)だけでなく、麻酔中の記憶が残らないよう)健康に絶えず監視し適切な処置を施すことで常に安全な状態に保つこと)を行います。

術中覚醒とは

麻酔を受ける前の説明ではさまざまですが、トラブルの可能性をお伝えしますが、

その中でも稀ではありますが発生すると患者さんに大きな影響を残す麻酔の合併症、『術中覚醒』があります。

本来、全身麻酔では意識が無い状態で手術が行われますが、手術中に意図せず意識がある状態を術中覚醒と呼びます。術中覚醒は、スタッフの会話や物音が聞こえるといったものから、術中に痛みを感じるものまで色々な種類があります。

術中覚醒の発生頻度は0.5%以下と言われていますが、全ての患者さんで術後インタビューが詳細に行われているわけでは無いことを考慮すると、実際の発生頻度はさらに高いと考えられています。

術中覚醒が発生する原因

術中覚醒の原因は、麻酔薬の不足の場合と、点滴もれに気がつかなかった、あるいは薬液の溶解ミスなど投与段階のエラーが挙げられます。

患者さんの意識が無い状態を保つために必要な麻酔薬の量にはかなりの個人差があり、麻酔科医は脳波、血圧、心拍数などを参考に個々の患者さんにとって適切な量を投与するよう調節しています。しかし、麻酔薬の多くは血圧を下げ、心臓の働きを抑制する作用があるため、麻酔薬が不足となってしまう場合があります。

術中覚醒を起こしやすいとされている手術

交通事故などの外傷に対する緊急手術(出血・心臓のダメージなどの理由により十分な麻酔ができない)、少量の麻酔薬で管理せざるを得ない場合(帝王切開の全身麻酔などで赤ちゃんに麻酔薬の影響が出ないようにする時・心臓の機能が落ちていて麻酔薬を投与すると多臓器障害が出るほど血圧が下がってしまう時など)が挙げられます。

術中覚醒を避けるための工夫

最も大切とされている事は、人為的ミスをなくす為のダブルチェックです。更に、麻酔薬の特性を理解している医師が術中覚醒の可能性を考慮しながら麻酔を行います。また、吸入麻酔薬モニターや脳波モニターを使用し麻酔の深さをはかりながら麻酔を行います。しかし、どんなに工夫をしても術中覚醒が起こる可能性はあります。

もしも術中覚醒が起きてしまったら

もしも術中意識があったと感じた場合は、術後何年にも渡りPTSD(心的外傷後ストレス障害)を引き起こす可能性があります。術後、よく眠れない、悪夢をみる、うつ状態になる等の症状が出る場合、精神科医や臨床心理士の治療が必要になります。体験した患者さんへ伝えて思い出したく無いため、医療者へ伝えたくない方も多くいます。少しでも治療の機会が失われないよう、麻酔科医から手が離れた期間であっても多くの医療者が術中覚醒を周知し、患者さんからのSOSを見逃さないよう努めています。

